

第六次総合計画 施策評価シート（令和3年度）

2-②

施策

くらしき文化の保存・継承と活用を図る

担当部局

教育委員会，文化産業局，総務局，企画財政局

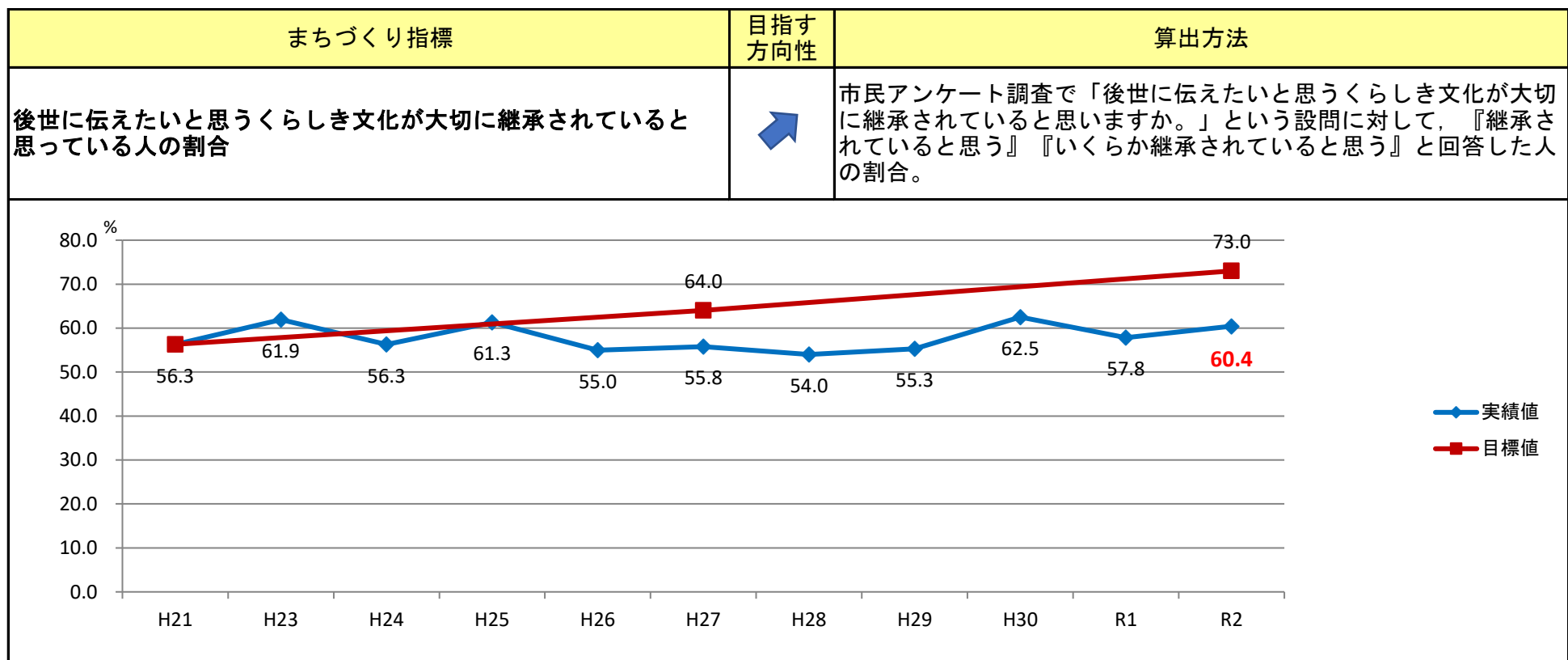
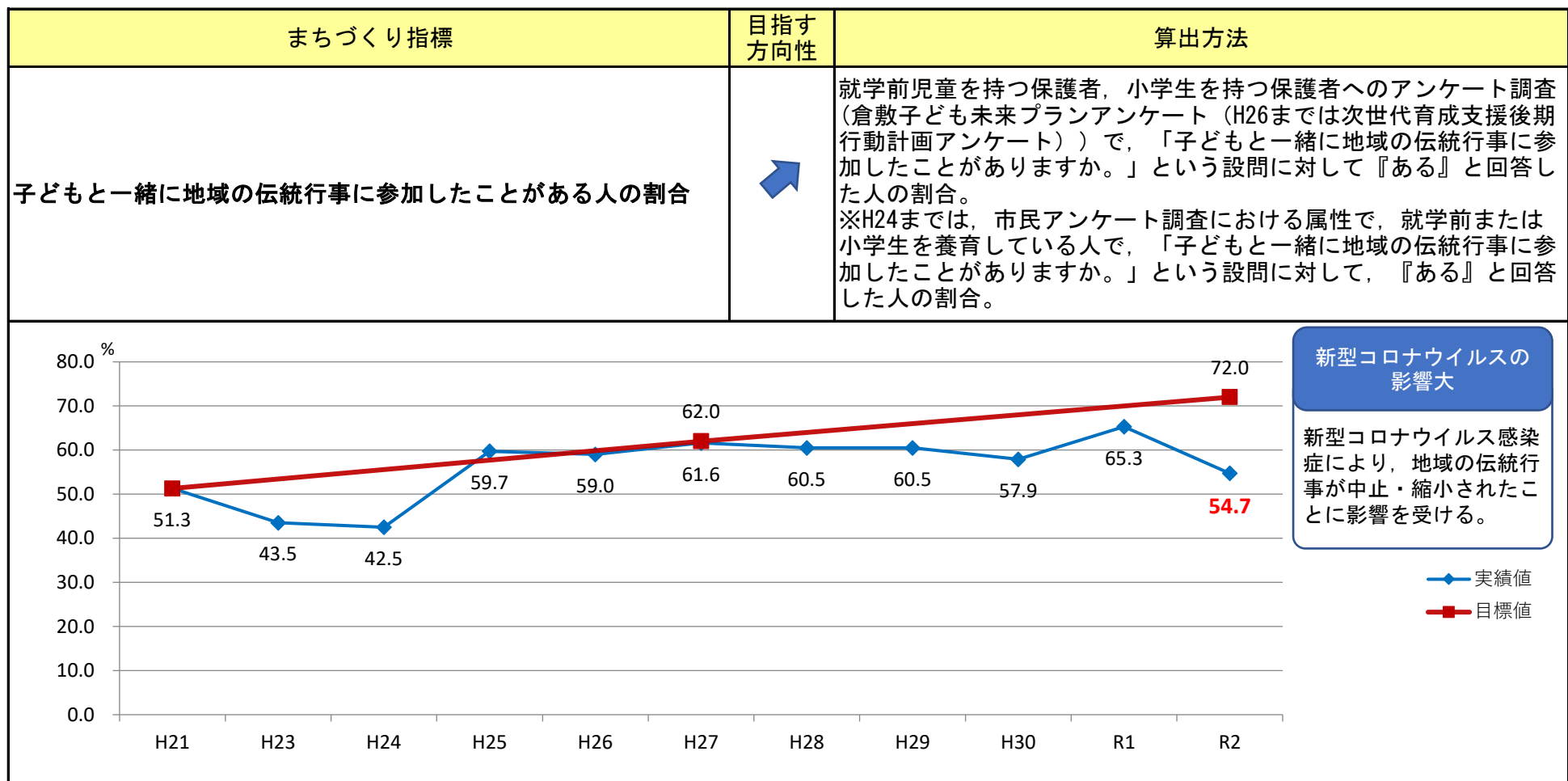


【豊 か】 めざまちの姿 世代を超えて受け継がれてきたくらしき文化が大切に継承され、輝いている

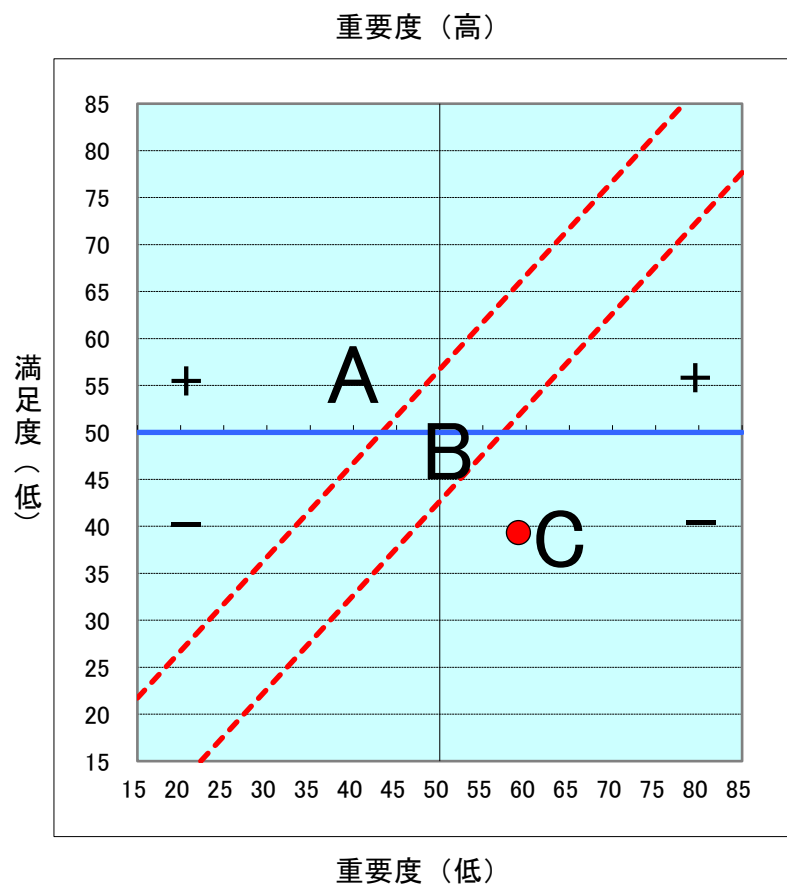
市の基本方針

- 歴史的遺産や文化財，地域のお祭りや郷土料理など，世代を超えて受け継がれてきた多様な「くらしき文化」の良さを広く知ってもらうとともに，それらを磨き上げ，世界に輝かせます。
- 文化財保護意識の普及啓発を図り，市内の文化財について情報収集するとともに，調査成果を広く市民に情報公開します。また，歴史的・学術的・芸術的価値の高いものは，文化財として指定するなど，適切な保存と活用を図り，数ある有形・無形の文化財を後世に引き継ぎます。
- 郷土の偉人を研究・顕彰するとともに，地域に根ざした文化活動を支援し，地域性豊かな市民文化の振興に努め，絶やすことなく伝え広げます。また，地域固有の文化資源を掘り起こし，伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を活用することなどにより，産業振興，観光振興につなげます。
- 市民共有の貴重な財産である公文書や古文書などの歴史資料を収集し，体系的に整理し，保存と公開によりその活用に努めます。

数値目標



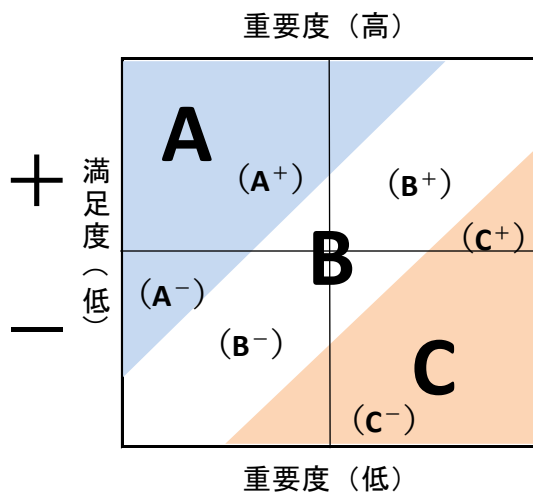
市民の重要度・満足度 (R3.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	39.34	59.12

●重要度に見合う以上の満足度が得られている (C)
●重要度が平均値より低い (-)

【グラフの見方】



- A : 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B : 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域
- ※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)
 + : 重要度が平均値より高い部分
 - : 重要度が平均値より低い部分
- A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻
- A⁺ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的 (I) / 令和2年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R2年度決算額 (千円)
創	伝統的建造物群保存地区・伝統美観保存地区・町並み保存地区保存事業	(I) 伝建・伝美地区及び町並み保存地区の景観を保存することを目的に実施した。 (II) 建物の外観の修理・修景に対して、伝統的建造物群保存地区で6件、伝統美観保存地区で1件、下津井町並み保存地区で2件、玉島町並み保存地区で1件の補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	47,236
創	文化財保護事業	(I) 文化財や史跡の保存、活用を図り、後世に引き継ぐことを目的に実施した。 (II) 文化財・史跡公園等の環境整備を行い、適切な保存と利用しやすい環境を維持することができた。文化財保護審議会・伝統的建造物群等保存審議会を開催し、文化財の保護に努めた。また、各種講座等に講師として職員を派遣した。 (III) 継続して実施する。	16,344
創	国指定重要文化財 井上家住宅保存修理事業	(I) 国指定重要文化財である井上家住宅を保護することを目的に実施した。 (II) 文化庁とも協議しながら復原計画を決定し、主屋の造作工事、井戸蔵・三階蔵の解体・保存修理工事を行った。防災設備整備事業については防災設備工事を行い、公開活用事業については管理施設の工事を行った。 (III) 継続して実施する。	2,355
	指定文化財保存事業	(I) 指定文化財の保存管理に必要な措置を講じ、後世に引き継ぐことを目的とする。 (II) 国指定重要文化財「大橋家住宅」屋根塀の保存修理、「旧野崎家住宅」耐震診断等事業にかかる費用の一部を助成した。 (III) 継続して実施する。	3,166
	埋蔵文化財保護事業	(I) 文化財保護法の趣旨に則り、開発行為から埋蔵文化財を適切に保護することを目的に実施した。 (II) 埋蔵文化財包蔵地内での開発行為の内容に応じて、全面発掘調査2件、確認調査を6件、立会調査を54件実施した。 (III) 法定業務として遺漏なく実施する。	1,034
	埋蔵文化財調査事業	(I) 市内の貴重な遺跡について、正確な範囲等を調査し、文化財の適切な保護及び活用を図ることを目的に実施した。 (II) 中津貝塚 (玉島黒崎) の確認調査及び内出1号墳 (真備町下二万) の測量調査を実施した。中津貝塚については、調査成果として、『中津貝塚』『倉敷埋蔵文化財発掘調査報告第18集』を刊行した。 (III) 継続して実施する。令和3年度以降は、内出1号墳の確認調査等を計画。	1,742
	歴史民俗資料館管理運営事業	(I) 市民の教養の向上、調査研究等に資することを目的に実施した。 (II) 歴史民俗資料館 (倉敷・福田) において、収集した郷土の歴史民俗資料を保存・展示した。施設の管理運営については指定管理者制度により行っている。 (III) 継続して実施する。	2,763
	埋蔵文化財教育普及事業	(I) 埋蔵文化財に関する学習活動を支援し、郷土愛と地域の誇りを育むとともに、埋蔵文化財行政に対する理解を得ることを目的に実施した。 (II) 埋蔵文化財や歴史に関する講座の開催、インターンシップ受入れ、講師派遣など延べ13回実施し、合計816人の参加があった。講座等を含め、埋蔵文化財センターの総利用者数は5,120人であった。 (III) 事業の企画を工夫しながら継続して実施する。	168

区分	事業名	目的(Ⅰ)／令和2年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R2年度 決算額 (千円)
	歴史資料調査研究整備事業	(Ⅰ) 歴史公文書や古文書などの歴史資料を収集・整理し、保存と活用を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 歴史資料利用のために427人が歴史資料整備室に来室した。『倉敷の歴史』の販売・寄贈冊数は812冊であった。災害に関する歴史資料をWebサイトに公開し、アクセス件数は40,049件であった。 (Ⅲ) より一層市民が利用できる体制となるよう継続して実施する。	9,175
公創	日本遺産推進事業	(Ⅰ) 本市日本遺産の魅力発信により郷土愛と誇りを醸成し地域活性化に繋げた。 (Ⅱ) 日本遺産の普及啓発を目的としたシンポジウムの開催、地元高校生の探求活動支援や成果発表会の開催、小学校に配布するカルタ3,000組の制作、真備復興のためのサイクリングマップ3,000部の制作などに取り組んだ。 (Ⅲ) 今後は高梁川流域圏での連携を模索しながら継続して実施する。	17,836